

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 3月 28日

事業所名 タイムこどもデイサービスめろでい

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		* 2F和室を使用不可にしていたが、クールダウンの部屋、更衣室、療育の部屋として準備中である。
	2	職員の配置数は適切である	○			* 曜日によっては職員不足を感じる * 不安定な子がいるとき男手が必要と考えることがある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		* 部屋ごとにクッションマットを敷き、バリアフリー化をめざしている。 * トイレが狭く、紙パンツ使用のお子さんの介助の際に不便を感じる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		* ミーティングを細めに行っているが、コロナもあり思うようにいかなかったため、来年度は頑張りたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		* 個々人のニーズにいていねいに応えるように努めている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			* 3月末に法人HPに、4月にディ通信に掲載している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		* 第三者委員会が行っている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			* リモート研修や会議での研修を行っているが、コロナで思うようにできなかった。 * 定期的専門家のご指導をいただいている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			* 個別相談のうえ、会議で話し合い、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			* 相談支援のものを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			* めろでい会議のときに話し合っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			* 絵本の楽しさを知ってほしいので、定期的に新しい絵本を用意している。帰りの会の時子ども達に読んでもらっている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			* おでかけの場所や、季節の工作や、展示物など工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			* 個別の療育をとり入れたり、集団での創作活動などをとり入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		* 今年度より勤務形態が変わり、ミーティングの機会がへりました。送迎の役割分担と、その日の大まかな内容を共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		* 職員は送迎後、個別記録を記入し、内容によってはスタッフと共に検証している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			* 全体日誌や、個別の活動報告書に記録をつけている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		* 今年もコロナのため、モニタリングも思うようにいかなかった。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			* 一日の支援の流れをつくって活動している。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		* 児童発達支援管理責任者が出席している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		* ミスはあったけど、常に連絡は取っていると思う
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		* 管理者及び児発管が相談支援と連携している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			該当なし
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		* コロナ収束後に再開したい。 * 現在はコロナ禍でむずかしい所がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		* コロナで協議会が持たれなかった
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		* 送迎の際、保護者とめろでいでの様子自宅での様子をおはなしさせていただき、管理者に報告している。ミーティングの時にスタッフに伝え話し合い共有している
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	* ペアレントトレーニングの研修に参加し行っていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		* 契約の際、管理者が行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		* 送迎時、連絡帳電話などで必要な助言を行っている。また、相談支援と共にその内容に沿って対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	* コロナで開催できなかった
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		* 苦情の窓口を設け、時には本部と連携し、真摯に対応している。 * 保護者からのご希望に沿えるように心がけています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		* デイ通信、たいむ通信を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	○		* 管理者のもと管理を徹底している。 * 私生活時も十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		* 利用者とマンツーマンで話したり、絵カードを用いたりしている。 * 送迎の際、保護者とていねいに情報交換をして寄り添えるよう心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	* コロナで開催できなかった

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		* マニュアルは事業所内に掲示していつでも確認できる様にしている。 * 保護者との連携訓練も必用だと思います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		* 年3回避難訓練を行っているが、送迎時の対応、避難場所での過ごし方、保護者との連絡等、引き渡しの訓練や、準備が必用である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		* 今年度は、県の動画視聴、久喜市職員の研修、アンガーマネジメント研修を行った
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		* 保護者に同書をもらい、個別支援計画に記載し、理解を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		* 保護者からの情報を受け、おやつを選択、食後の清掃など細心の注意をはらい対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		* ヒヤリハット用紙に記入し、その情報を周知共有し会議で再発防止を話し合っている。